

学会部門情報

科学研究費補助金申請を  
細目「金属生産工学」へ

科研費研究小委員会

科学研究費補助金の配分は細目ごとに応募件数に比例して行われる。このことは採択される確率が細目ごとに同じになり公平である。したがって、自分の研究に関連する分野に応募すれば良いが、少しでも採択される確率を上げるためには科学研究費補助金の決定システムについて知っておくことが肝要である。

科学研究費補助金は部、分科および細目の順に区分され配分される。私達に関係する分科は工学の部の「材料工学」である。この分科は6つの細目に分かれており、その分野の内容をキーワードで表したのが右の表である。日本鉄鋼協会の会員に関連する細目は「金属生産工学」と「材料加工・処理」であろう。この内「金属生産工学」は日本鉄鋼協会が幹事学会として世話をしている細目である。これらの細目のキーワードは科学の進歩に合せ定期的に見直される。来年度は、「金属生産工学」に「リサイクル」と「廃棄物処理」を、「材料加工・処理」に「薄膜プロセス」を加えるべく努力している。

配分を決める審査は2段階で行われる。1段審査では細目ごとに審査員が3名以上、応募件数を考慮して決められている。2段審査では2名の審査員が1段審査の結果を調整する。そして、配分案を文部省に報告し、文部省学術国際局が決定する。

さて、科学研究費補助金の分科と細目は定期的に見直される。最近の見直しは平成5年度に行われた。この見直しは日本学術会議が提案し文部省が決定する。このとき、応募件数が多い分野や細目は拡充され、少ない分野は廃止あるいは統合されるであろう。このように、応募件数が多い細目ほど科学研究費補助金の配分額も多くなり、その分野の発展をうながすことが出来る。

科学研究費補助金の種目には、総合研究(A)、一般研究(A)、(B)、(C)、奨励研究(A)、試験研究(A)、(B)があり、この他にも萌芽的研究や広領域研究、重点領域研究などがある。これらの種目には、一人の研究者が総合研究、一般研究、試験研究の研究代表者になることができる。すなわち、一人の研究者は少なくとも3つの種目に応募することが出来る。ただし、申請した研究の採択率を向上させるためには、申請者が留意すべき事項がある。例えば、申請内容の価値を分かりやすくしかもなるべく具体的に記述し、研究期間内に目的を達成できることを審査委員に積極的にアピールするように配慮すべきであろう。また、申請書は見やすいことが大切である。このため、活字の適切な選択、図面の有効な利用などを考慮する必要がある。

補助金の配分は応募件数だけでなく、応募金額の総額にも関係す

る。それぞれの種目には申請限度額が設けられている。また、試験研究(A)のように下限だけ設けられているものもある。研究の立案、遂行に当たっては十分な検討を加えねばならないが、資金的にも十分な余裕が欲しいものである。応募に当たっては資金的に余裕のある申請をすることが望ましい。

10月は来年度の科学研究費補助金の申請をする時期である。一人でも多くの研究者が細目「金属生産工学」に応募され、金属生産プロセス分野が発展することを期待する。

分科「材料工学」の細目の世話学会とキーワード

分科	細目	世話学協会 (★幹事学協会)	キーワード
材料工学	金属物性	★日本金属学会	原子、電子構造、相変態、状態図、格子欠陥、力学・電子・電磁・照射・表面界面・熱物性
	無機材料・物性	★日本セラミックス協会 日本化学会	結晶構造、組織制御、力学・電子・電磁・光・表面・界面物性、高温特性
	複合材料・物性	★日本化学会 日本金属学会 日本セラミックス協会 高分子学会	有機・無機繊維、マトリックス材、複合効果、分散強化、FRM、FRP、FRC、傾斜機能材
	構造・機能材料	★日本金属学会 日本鉄鋼協会	強度、靱性、破壊、クリープ、疲労、磁性材料、電子材料、熱・エネルギー材料、耐環境材料
	材料加工・処理	★日本金属学会 日本鉄鋼協会	表面改質、腐食防食、塑性加工、粉末冶金、熱処理、接合、放電・レーザー加工、非破壊検査
	金属生産工学	★日本鉄鋼協会 日本金属学会	製錬、素材精製、鋳造、融体、凝固、溶接、結晶育成、資源分離、製造プロセス、プラズマプロセス
	(第2段)	★日本金属学会 日本セラミックス協会 日本化学会 日本鉄鋼協会	

平成7年第130回秋季講演大会  
プログラム掲載のお知らせ

第130回秋季講演大会(平成7年11月3日(金)~5日(日)大阪大学吹田キャンパス)の講演プログラム・会場地図等は、「鉄と鋼」Vol.81(1995)No.10(10月1日発行)に掲載いたします。